

青少年と電子メディア等に関する調査結果の概要

調査の概要

1 調査目的

青少年が、日ごろ家庭や地域でどのように生活し、テレビやインターネット等の電子メディアとどのように接しているのかを把握し、青少年と電子メディアとの関係を健全なものにするための取り組みに向けた基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査の実施主体

広島市青少年問題協議会

3 調査の概要

(1) 対象者 広島市内の市立の小学校4年生 521人 小学校6年生 525人
中学校3年生 503人 高校3年生 518人 及びその保護者

(2) 調査事項

ア 青少年

日頃の生活について

インターネットについて

イ 保護者

子どもの生活について

パソコンやインターネットについて

インターネット上のポルノ画像などについて

子どものインターネット利用について

情報化社会の現状について

(3) 調査方法 各学校で配布し、回収

(4) 調査時期 平成13年5月

(5) 回収数

区 分	対象者数	回収数	回収率
青少年	2,067	1,755	84.9%
保護者	2,067	1,749	84.6%

小・中・高校生の電子メディアの利用状況

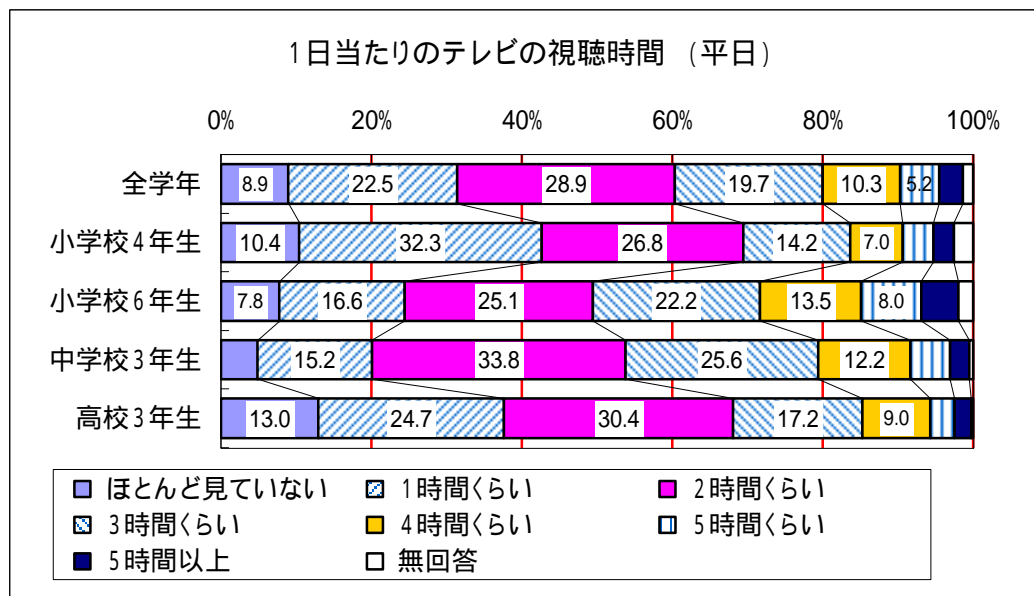
1 テレビ、テレビゲーム、インターネットの利用状況

(1) テレビの視聴時間

ア 平日

平日のテレビの視聴時間で最も多いのは、「2時間くらい」(28.9%)で、次に「1時間くらい」(22.5%)、「3時間くらい」(19.7%)の順になっている。

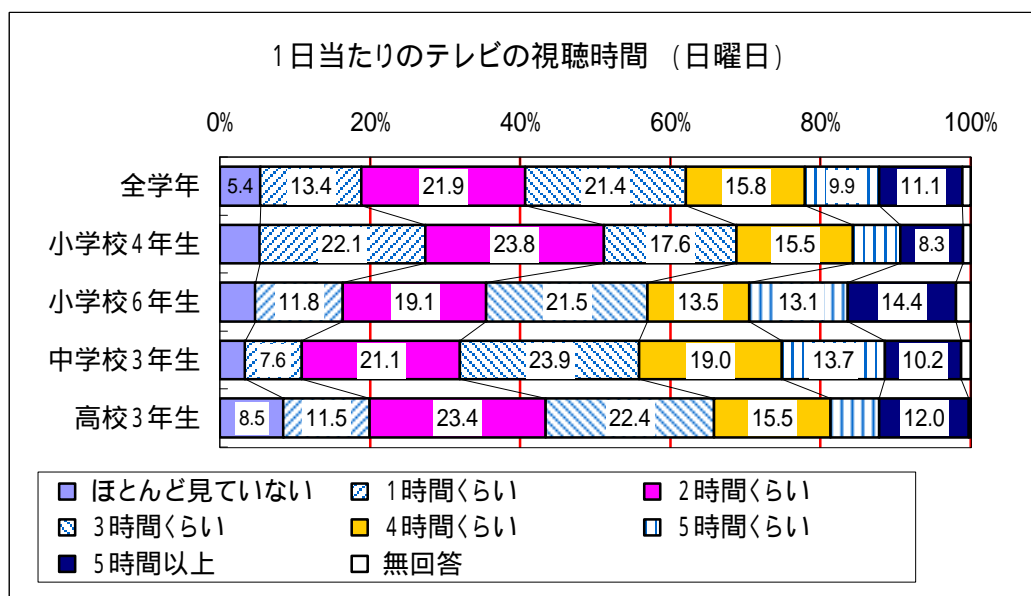
学年別にみると、各学年とも「2時間くらい」が最も多い。



イ 日曜日

日曜日のテレビの視聴時間で最も多いのは、「2時間くらい」(21.9%)で、次に「3時間くらい」(21.4%)、「4時間くらい」(15.8%)と、平日に比べ、視聴時間が長い傾向となっている。

学年別にみると、小学校4年生と高校3年生では「2時間くらい」が最も多いが、小学校6年生、中学校3年生では「3時間くらい」が最も多い。中学校3年生では4時間程度かそれ以上見ていると回答した者は、約43%となっている。

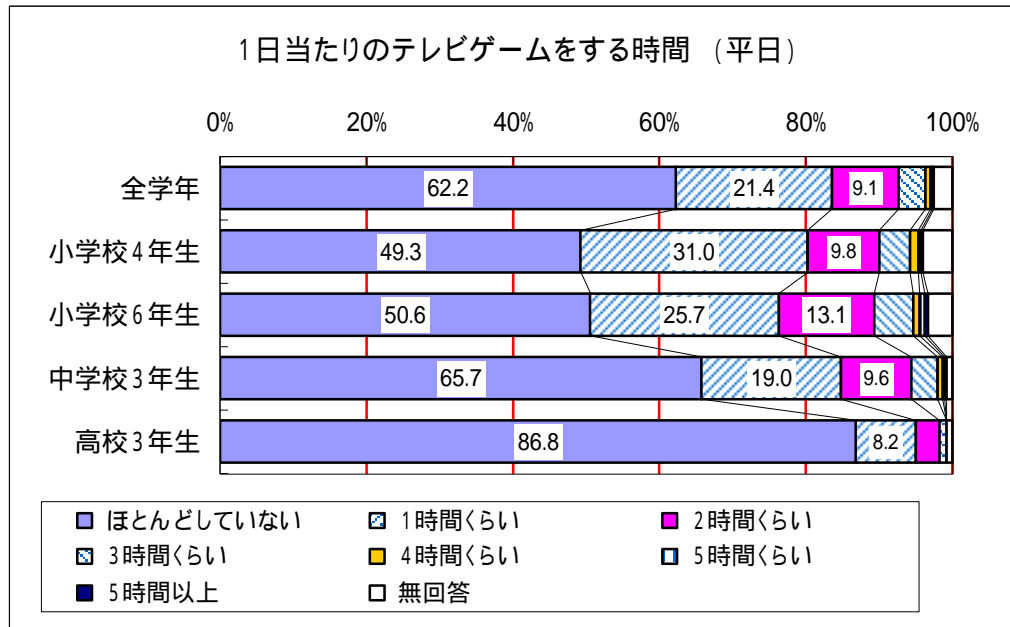


(2) テレビゲームをする時間

ア 平日

平日のテレビゲームを「ほとんどしていない」と回答した者が最も多くなっている(62.2%)。テレビゲームをすると回答した者で最も多かったのは「1時間くらい」(21.4%)となっている。

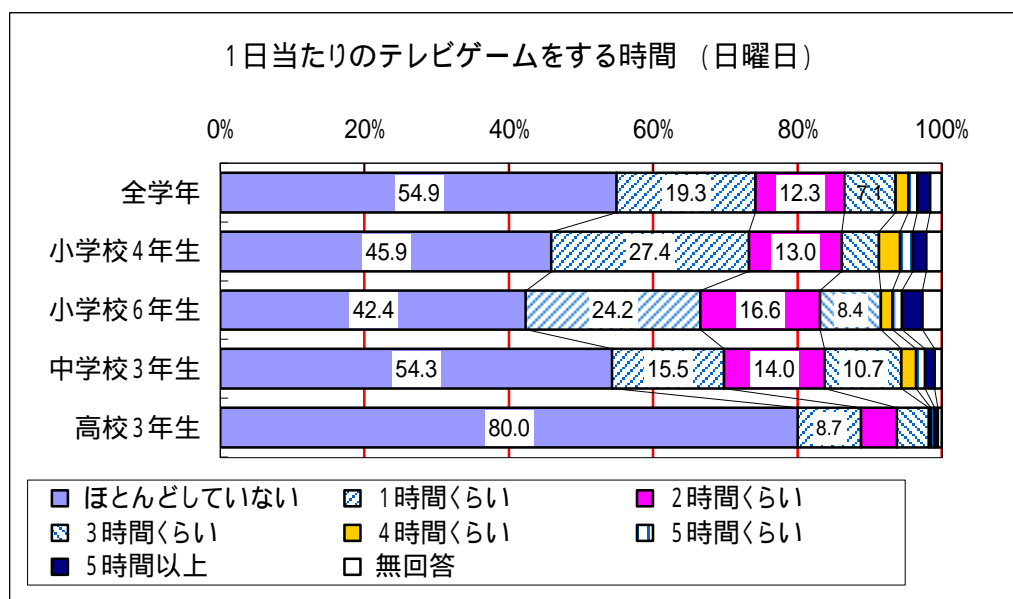
学年別にみても、「ほとんどしていない」が各学年とも最も多く、高校3年生では約87%となっている。また、テレビゲームをしていると回答した者の割合が最も高い学年は小学校4年生であり、約47%となっている。



イ 日曜日

日曜日のテレビゲームを「ほとんどしていない」と回答した者が最も多くなっている(54.9%)。テレビゲームをすると回答した者で最も多かったのは「1時間くらい」(19.3%)となっている。

学年別にみても、「ほとんどしていない」が各学年とも最も多いが、平日と比べいずれも少なくなっている。また、テレビゲームをしていると回答した者の割合が最も高い学年は小学校6年生で、約45%となっている。

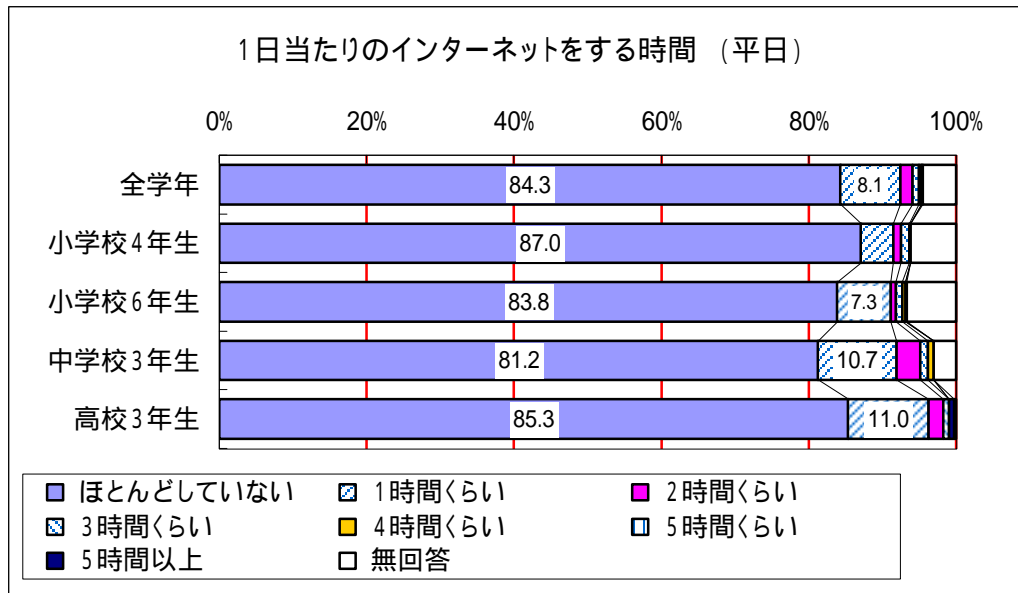


(3) インターネットをする時間

ア 平日

平日のインターネットの利用を「ほとんどしていない」と回答した者が最も多くなっている(84.3%)。インターネットをすると回答した者で最も多かったのは「1時間くらい」(8.1%)となっている。

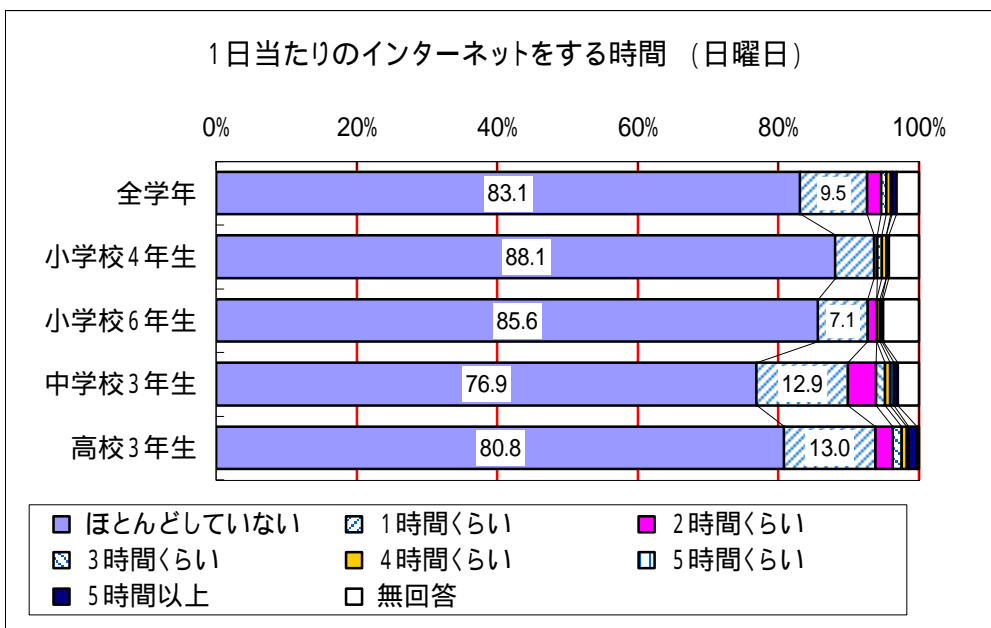
学年別にみても、「ほとんどしていない」が各学年とも最も多い。また、インターネットをすると回答した割合が最も高い学年は、中学校3年生で約16%である。



イ 日曜日

日曜日のインターネットの利用を「ほとんどしていない」と回答した者が最も多くなっている(83.1%)。インターネットをすると回答した者で最も多かったのは「1時間くらい」(9.5%)となっている。

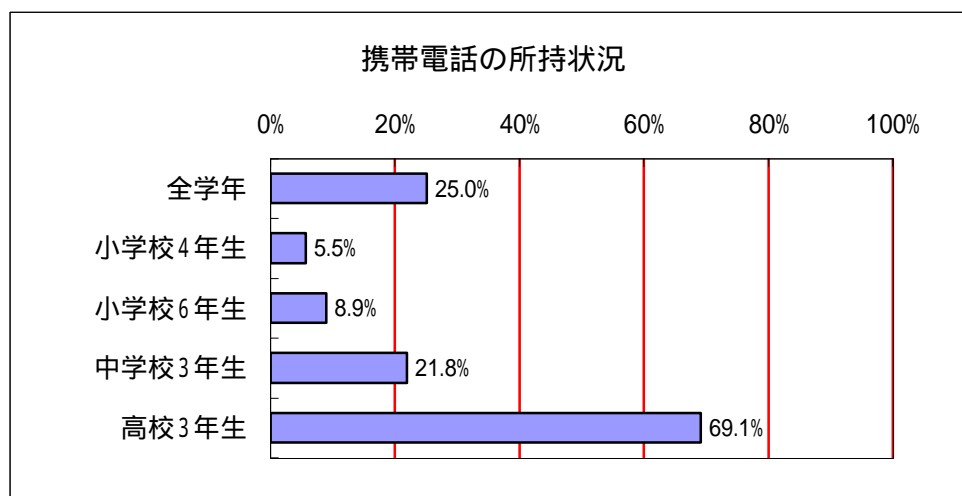
学年別にみても、「ほとんどしていない」が各学年とも最も多い。また、インターネットをすると回答した割合が最も高い学年は、中学校3年生で約20%である。



2 携帯電話の所持状況

自分が使える携帯電話を25%の者が持っている。

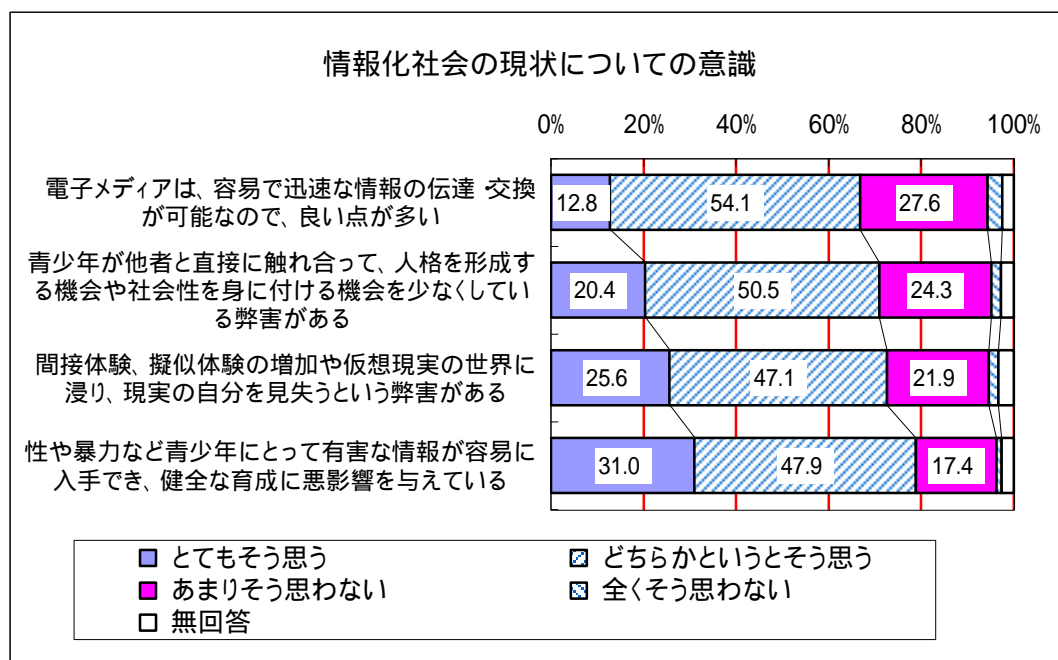
学年別では、小学校4年生(5.5%)、小学校6年生(8.9%)、中学校3年生(21.8%)、高校3年生(69.1%)となっている。



保護者の意識

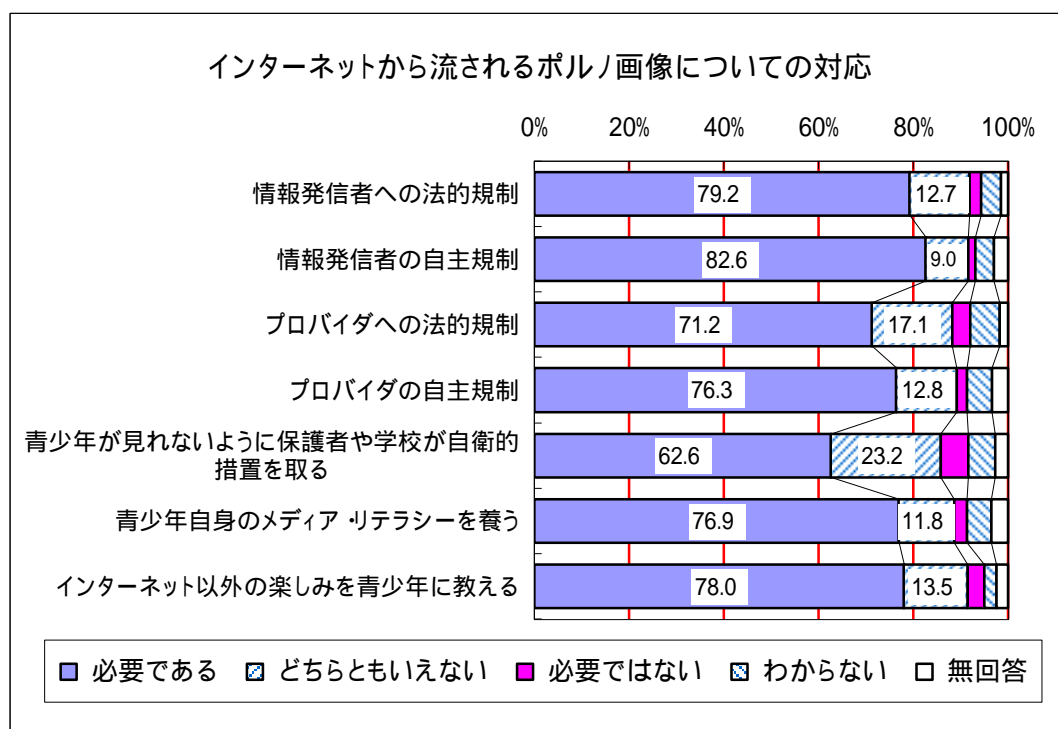
1 情報化社会の現状についての意識

電子メディアは容易で迅速な情報の伝達などが可能なので良い点が多いと、その有能性を約67%の保護者が評価する一方で、70%以上の保護者が弊害があると思うと回答している。



2 インターネットから流される有害情報への対応

インターネットから流されるポルノ画像、残虐画像、犯罪をあおるなどの有害情報について、情報発信者やプロバイダへの法的規制、自主規制が必要であると回答した保護者は、それぞれ約70%から約90%となっている。



残虐画像、犯罪をあおるなどの有害情報についても同様